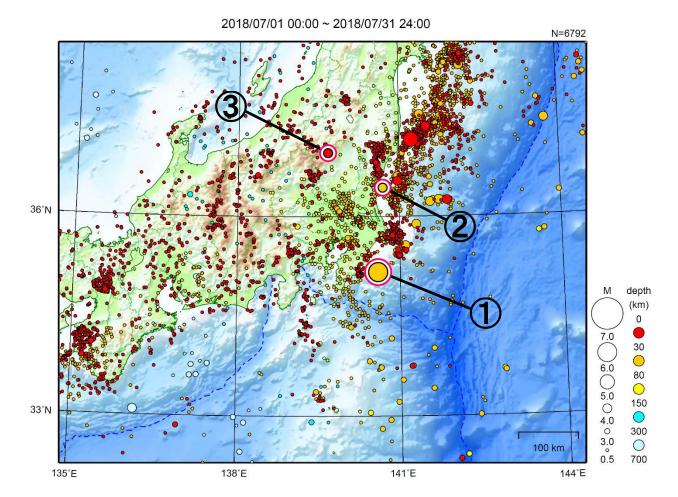
関東・中部地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

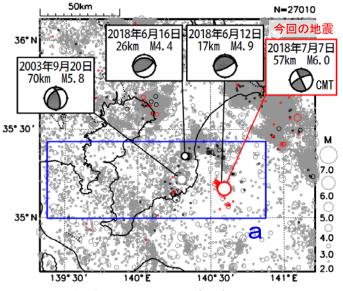
- ① 7月7日に千葉県東方沖でM6.0の地震(最大震度5弱)が発生した。
- ② 7月17日に茨城県沖でM4.8の地震(最大震度4)が発生した。
- ③ 7月29日に栃木県北部でM4.5の地震(最大震度3)が発生した。

7月7日 千葉県東方沖の地震

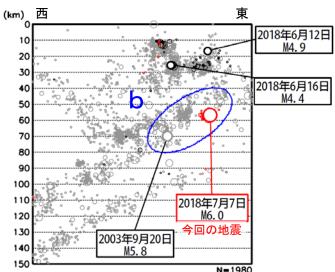
震央分布図

(1997年10月1日~2018年7月31日、 深さ0~150km、M≥2.0)

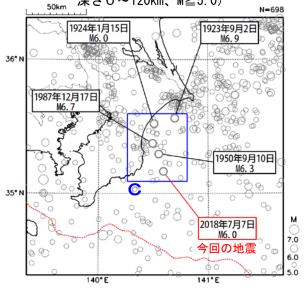
2018年6月1日~7月6日の地震を濃く表示 2018年7月7日以降の地震を赤く表示



領域 a 内の断面図(東西投影)



震央分布図 (1923年1月1日~2018年7月31日、 深さ0~120km、M≥5.0)

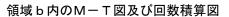


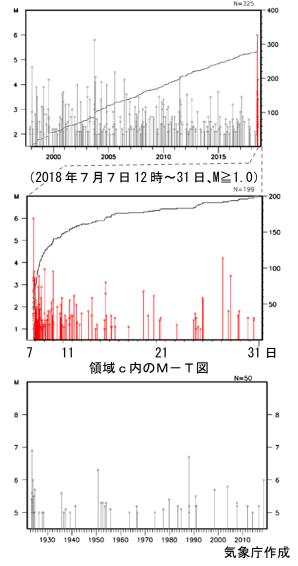
2018年7月7日20時23分に千葉県東方沖の深さ57kmでM6.0の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、太平洋プレート内部で発生した。

なお、今回の地震の震央付近では、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界におけるゆっくりすべりに伴い、6月3日からまとまった地震活動がみられ、6月12日にM4.9の地震(最大震度3)、同16日にM4.4の地震(最大震度4)が発生しているが、これらとは深さが30~40km程度異なっている。

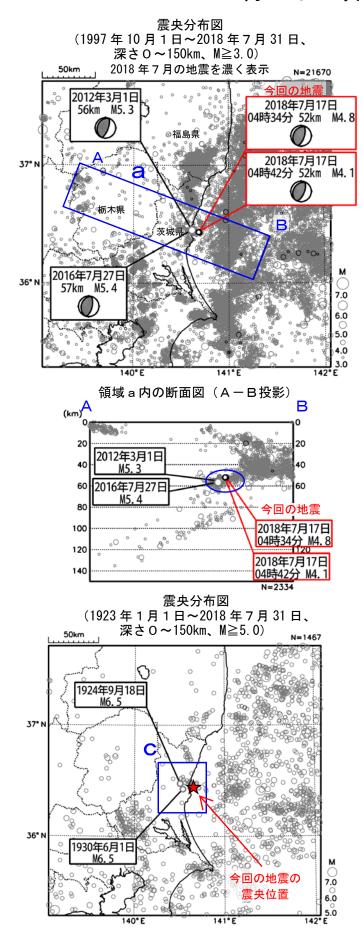
1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域 b) では、2003 年 9 月 20 日に M5.8 の地震(最大震度 4) が発生し、負傷者 8 人の被害が生じた(総務省消防庁による)。

1923 年以降の活動をみると、今回の震央付近 (領域 c) では、M6.0以上の地震が4回(今回 の地震を除く)発生しており、このうち1987 年 12 月 17 日にフィリピン海プレート内部で発生 した千葉県東方沖の地震(M6.7、最大震度5) では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、 住家一部破損7万余棟などの被害が生じた(「日 本被害地震総覧」による)。





7月17日 茨城県沖の地震

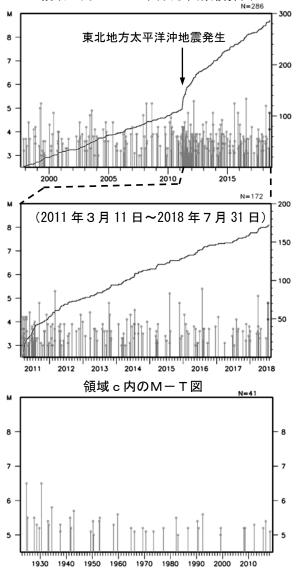


2018年7月17日04時34分に茨城県沖の深さ52kmでM4.8の地震(最大震度4)が発生した。この地震は発震機構が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震の発生以降、同日04時42分にM4.1の地震(最大震度3)が発生した。

1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域 b) は、M5.0以上の地震が時々発生している。東北地方太平洋沖地震の発生以降、活動がより活発になっており、2012 年3月1日にはM5.3の地震(最大震度 5 弱)、2016年7月27日にはM5.4の地震(最大震度 5 弱)が発生している。

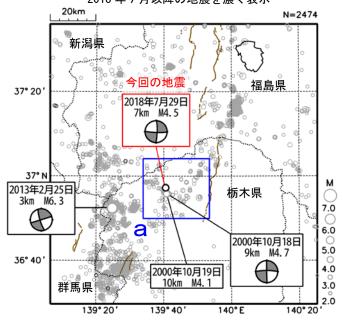
1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域 c)では、M5.0以上の地震が度々発生しており、このうち、1930年6月1日に発生した M6.5の地震(最大震度 5)では、がけ崩れ、煙突倒壊などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。





7月29日 栃木県北部の地震

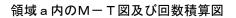
震央分布図 (1997年10月1日~2018年7月31日、 深さ0~20km、M≥2.0) 2018年7月以降の地震を濃く表示

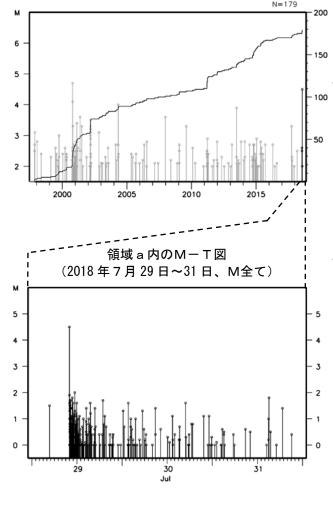


2018 年 7 月 29 日 09 時 58 分に栃木県北部の深さ 7 km で M4.5 の地震(最大震度 3)が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は、北西ー南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の発生以降、一時的にややまとまった地震活動がみられた。

1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域 a)では、ややまとまった地震活動が時々みられており、2000 年には、10 月 18日に M4.7 の地震、翌19日に M4.1 の地震(いずれも最大震度4)が発生した。

1923 年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域 b)では、M6.0以上の地震が3回発生している。最近では、2013年2月25日にM6.3の地震(最大震度5強)が発生した。また、1949年12月26日には、08時17分と08時24分にそれぞれM6.2とM6.4の地震が短い時間で連続して発生し(今市地震)、死者10人、負傷者163人、住家全壊290棟、非住家全壊618棟などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。





震央分布図中の茶色の細線は地震調査研究推進本部の 長期評価による活断層を示す。

震央分布図 (1923年1月1日~2018年7月31日、 深さ0~50km、M≥4.5)

